

令和5年度消費者教育フェスタテーマ

「地域連携による消費者教育 ここまでできる！これからも広げる！～近江八幡8年の軌跡と未来～」



開催時期 2024年2月1日

開催地 滋賀県近江八幡市

● 会場参加者(関係者含む)

| | |
|---------|-----|
| 行政職員等 | 29 |
| 教育関係者 | 58 |
| 学生 | 0 |
| 団体職員・会員 | 20 |
| 企業等 | 10 |
| その他 | 11 |
| 合計 | 128 |

● 視聴参加者(申込者)

| | |
|---------|-----|
| 行政職員等 | 62 |
| 教育関係者 | 40 |
| 学生 | 4 |
| 団体職員・会員 | 14 |
| 企業等 | 11 |
| その他 | 2 |
| 合計 | 133 |

2024.2.8 UP! 消費者教育フェスタin近江八幡、アーカイブ配信公開中!

基調講演、事例報告、パネルディスカッションの動画を本フェスタ公式YouTubeチャンネルで公開。またライブ配信ではお伝えできなかった交流タイムの様子もお届けします。交流タイムでは、近江八幡市の4つの取組団体のほか全国で活動する11団体のご協力のもと、展示ブースを用意し、参加者が自由に体験、見学、情報交換できる場となりました。3月末までの期間限定となりますのでお見逃しの方はぜひご視聴ください。



令和6年3月31日まで
期間限定で
アーカイブ配信中



基調講演



事例報告





交流タイム



パネルディスカッション



総評
閉会あいさつ



●アンケートより(抜粋)

- ・ 非認知能力の大切さを感じた。子供だけでなく自分自身も「意識」することでよりよく生きる力をつけたい。
- ・ 非認知能力は、消費者教育の生きる力にもつながる。
- ・ 消費者教育は予測不可能な未来を生きる若者にとって必要な力の育成であることに気付いた。
- ・ 消費者教育と聞くとすごく難しいと感じていましたが、普段の生活に基づくものだと気づくことができました。
- ・ 小さいころから消費者教育をしていくことの大切さを改めて感じた。
- ・ 様々な立場の人たちがつながって、「消費者」の視点から様々な課題解決に向けて様々な世代の人たちとともに考え、取り組んでいくことが、大きな一歩につながるのではないかと思った。つなぐことで少しずつ先が見える。そんな取り組みができればよいと思いました。
- ・ 勉強とても大事だがそれだけではなく生きていく力、考える力、自分で判断できる力が必要。消費者教育はそんな力を身につける一つの方法である。
- ・ 子どもが楽しそう
- ・ 視野が広がった
- ・ 何のために今これをしているのかそれを意識するだけで影響が全然違う。
- ・ チームとして活動している点、素晴らしいと思いました。
- ・ 普段やっていることの視点を変えるだけで消費者教育になることに気づいた。
- ・ 毎年毎年の取組の積み重ねが現在につながっていて、今後もさらに発展していくイメージを描けた。

●アンケートより(抜粋)

- ・ いろいろ消費者教育を知り、認識し合う場面としてよい場だと思う。この場から次の活動へと広がればと感じる場となった。
- ・ 直接団体の方とお話でき、貴重なお話を聞くことができた。
- ・ 体験型の交流があり活動があったので飽きることなく学ぶことができた。
- ・ 楽しく交流しましたが、参加される方が限られていたのが残念でした。

- ・ コミュニケーションや想いを伝えあうことが大切だと気づいた。
- ・ 様々な立場からの意見が聞けたのが良かったです。
- ・ それぞれの立場を理解しながら、無理せず連携することが大切だということがわかりました。
- ・ 「楽しいを伝える」の発言が参考になった。
- ・ みなさんの本音がよかった。
- ・ それぞれの立場から発言を通して、改めて消費者教育の間口の広さを感じました。子どもらに学びを実感させるためには実体験が必要です。地域ぐるみの教育を展開出来たらよいなと思いました。未来への投資です。

●アンケートより(抜粋)

- ・ 自分の地域でできたらなと思うことがたくさんあった。
- ・ 自分自身の自治体で何ができるかを考える機会となった。
- ・ 地方都市の消費者教育のヒントになった。
- ・ 今あるカリキュラムの中でどの部分が消費者教育プログラムに位置付けられるのか見直す必要がある。カリキュラムマネジメントの中で位置づけ、今ある学びを活かしたい。
- ・ 地域とつながる実践で非認知能力を育み、消費者教育の視点で子どもを育てていくということを多くの教員に広めていきたい。
- ・ 本市でも、まずは多くの方と関わり、その中で連携協働できることを考えていきたい。

- ・ なんでも消費者教育に結びつけることができるという考え方はSDGs時代の消費者教育を一層普及していくうえで重要ですが、消費者教育としてのアイデンティティが見えにくくなっていると感じた。

- ・ プログラムのコンセプトが非常に明確であったことから、基調講演から最後のパネルディスカッションまでが一貫しており内容が入りやすかった。
- ・ 多様なプログラムが組み立てられていてよかった。

● 成果

- ・ 消費者教育について改めて考える場となった
- ・ 近江八幡市の子どもを中心にした消費者教育の3つの取組の成果を共有し、消費者教育の地域連携の可能性を示すことができた
- ・ 消費者行政と教育委員会との連携の姿を具体的に示すことができた
- ・ モデル校の事例報告から、いつもの授業を消費者の視点を意識することで消費者教育になることを共有することができた
- ・ 消費者教育をテーマに多様な主体のコミュニケーションの場になった
- ・ 消費者教育フェスタの開催を通じて、近江八幡市における消費者教育への意識が高まった

● 今後に向けて

- ・ 消費者教育にあまり関心がない方への波及
- ・ 消費者教育をさらに深め広めること
- ・ 消費者教育の地域連携の他地域における波及

